

ハンセン病問題 シンポジウム

本年2月、群馬大学は、栗生楽泉園及び栗生楽泉園入所者自治会と包括的事業連携の協定を締結しました。その意義を確認するとともに、平成27年度に群馬大学地域貢献事業として社会情報学部が取り組んだ栗生楽泉園スタディーツアー、ガイドブック及び映像制作の活動を紹介し、大学と地域がハンセン病問題にどのように取り組んでいくべきか、今後の取り組みのあり方を考えます。

2016年5月28日(土) 13:30~16:30

場所：群馬大学荒牧キャンパス ミューズホール

参加費：無料

13:30 開会

挨拶 和泉 孝志 群馬大学理事・副学長
挨拶 坂本 浩之助 国立療養所栗生楽泉園 園長

13:40~14:20 《 第一部 基調講演 》

講演：「らい予防法廃止20年，裁判勝利15年，偏見差別解消」
栗生楽泉園入所者自治会長 藤田 三四郎氏

14:30~16:30 《 第二部 活動報告 》

報告：栗生楽泉園スタディーツアーボランティアガイド 小澤 覚

報告：ガイドブック制作班 社会情報学部4年 大谷 颯

報告：映画制作班 社会情報学部4年 堤 雅貴

映画上映 「いのちの証を求めて ハンセン病を生きた詩人 弐雄二」

講演：「いのちと名前」 編者・作家 姜 信子氏
質疑



弐雄二さん(趙根在撮影)

16:30 閉会

挨拶 富山 慶典 群馬大学社会情報学部長
(司会:群馬大学社会情報学部教授 西村 淑子)